

「北朝鮮を焦らせたトランプ書簡の破壊力」

安倍晋三自民党総裁の外交特別補佐である河井克行衆院議員「写真」が、31回目の米ワシントン訪問から帰国した。北朝鮮問題の専門家、情報関係者、国会議員ら7人と会った分析結果を語った。

「5月24日にドナルド・トランプ大統領は書簡で、金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長に『6・12首脳会談』の中止を通告した。この書簡の内容はよく考えられ、表現も練られたものだった」



「どこが、練られた部分か。」

「書簡のきっかけは、北朝鮮の崔善姫(チェ・ソンヒ)外務次官が談話で、マイク・ペンス米副大統領を口汚く罵倒したことだ。トランプ氏は正

恩氏に宛てた書簡で、《your most recent statement》と書き、『崔氏の談話

は、お前が出したのだろう。俺は見抜いているぞ』というトーンを強く出した。この状況で、なぜ首脳会談を開けるのか、と」

「この書簡は、だれが書いたのか。」

「情報筋によると、『トランプ氏

本人が口述し、ジョン・ボルトン大統領補佐官がまとめたのではないか』との見方が強かった。この前後、正恩氏は計算違いをした」

計算違いとは。 「正恩氏は揺れ動いていた。核の完全廃棄に一度はハラを固めたが、朝鮮人民軍の強硬派からの突き上げもあり、すべての核兵器を失うこと

鈴木棟一の風雲永田町

5847

見て、甘く考えた」

「トランプ氏は、意識してやったのなら、大したものだが、首脳会談に前のめりで、『心から欲している』と発信を続けた。正恩氏はこれを見て、ひよっとすると低レベルの核廃棄を認めてくれるのではないかと、崔氏の談話で様子見をした。トランプ氏は無

礼な発言に一撃をかました」

「一連の動きを、河井氏が総括した。正恩氏のとくらみに対する一通の書簡の破壊力を見つけた。低い水準で俺は妥協しないぞ、と。同時

に不安が生じた。そして、トランプ氏のツイッターを

「に、書簡の最後に『もし、あなたの気持ちが変わったら、遠慮なく電話か、手紙をくれ』と書いた。金英哲(キム・ヨン Chol)朝鮮労働党委員長が1日、正恩氏の親書をワシントンに持参したが、このメッセージへの返書だ」

北朝鮮は、低姿勢なのだ。 「トランプ氏に一発かまされて、焦った正恩氏はナンバー2の金英哲氏を派遣した。金英哲氏はニューヨークでマイク・ポンペオ国務長官と会談し、続いてワシントン入りした。北朝鮮は、誠実に対応している」

米朝首脳会談は。 「いずれ行われると見るが、十分な成果を得られる期待は薄い。会談が延期されたら軍事行動の可能性が高まる、との見方が情報筋から出た」

(政治評論家)

河井克行氏「揺れた正恩氏」